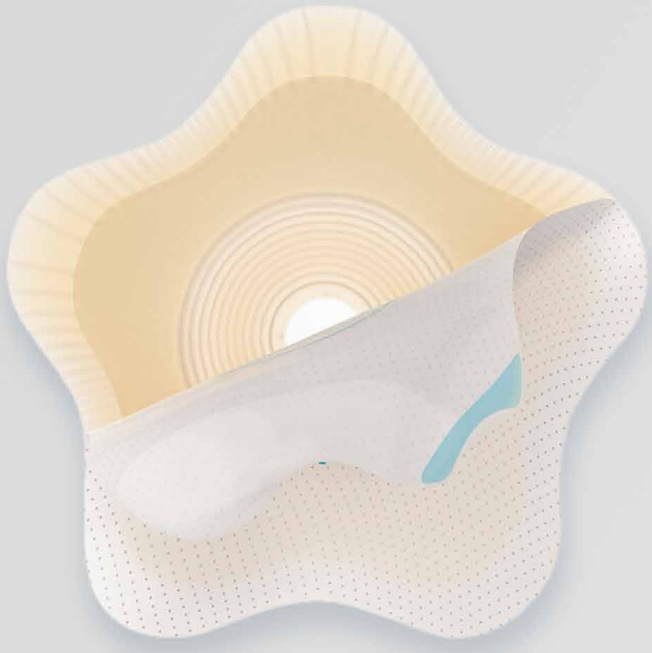


Case Report Vol.15

セルフケア早期確立を目指した術後から退院後の腹壁変化における装具選択

はじめに

ストーマを造設した患者が安定した日常生活を送るためには、患者または家族がストーマケアにおけるセルフケアを確立していることが必須である。それに加えて、術後から退院後の経過の中で生じる腹壁の変化を予測し、安定した装具装着が継続できる装具を選択することも重要である。しかし、在院日数が短縮化されたことで、セルフケアの確立のみにとどまり、退院後の腹壁変化を予測した装具選択を考える機会は少なくなっているのではないだろうか。また、腹壁変化だけではなく、術後に発生するストーマ浮腫が軽減した状態においても装具を変更する機会があるため、入院中に社会復帰用装具を選択する場面では、退院後の状態変化を考慮する必要がある。

今回、術後にストーマ浮腫とストーマ近接部のくぼみを認めた患者に対し、入院中から退院後のストーマサイズや腹壁が変化した状態において、センシュラ ミオ1 コンケーブとブラバ プロテクティブシール コンベックスで継続的に管理できたため報告する。

林 智子
新潟県立中央病院
皮膚・排泄ケア認定看護師

略歴
2001 年 新潟県立中央病院 入職
2009 年 皮膚・排泄ケア認定看護師資格取得
2011 年 院内褥瘡管理者として従事、ストーマ外来も担当している

Coloplast® Professional

症　例
60歳代 女性

センシュラ ミオ コンケーブと ブラバ プロテクティブシール コンベックスを併用し、退院後も装具の種類を変更することなく経過した症例

［症例提示］

患者背景

【疾　　患】直腸がん（ステージⅣ）ストーマ造設

【既　往　歴】脳出血・脳梗塞（日常生活に支障をきたす麻痺はなし、ADL 自立）
左乳癌術後：ホルモン療法加療中、腫瘍マーカーの上昇を認め PET-CT にて直腸がん・肝転移の診断

【術　　式】腹腔鏡下人工肛門造設術（S状結腸双孔式ループストーマ）

【身長・体重／BMI】身長：150.3cm　体重：49.7Kg　BMI：22.0

【今後の治療】術後化学療法を予定している

【ストーマの状況】1）ストーマの種類：S 状結腸双孔式ループストーマ
2）ストーマサイズ：基部径：45×45×28mm、最大径：45×55mm
術後1日目はストーマ浮腫を認めた
（基部径：43×50×32mm、最大径：75×75mm）
3）排泄物の性状：軟便（ブリストルスケール 4～5）
4）ストーマ周囲皮膚：A0B0C0:0D0
5）腹壁の状況：術後は臍周囲から正中を中心に硬めだったが、退院時は普通であった。臥位でストーマ粘膜皮膚接合部から近接部にくぼみがあり、坐位で3時～9時方向に浅いくぼみ、12時方向の腹壁が軽く覆いかぶさる状態であった。
6）使用装具と交換間隔：術直後は CPGFb 系単品系平面装具 + ブラバ プロテクティブシール（ストーマ周囲全周）、2日～3日交換。

【患者の状況】独居であり退院後も独居を継続する予定、退院までにセルフケア確立を希望している。

【ケアの主体】本人（キーパーソンは兄）

看護展開

CPGFb系単品系平面装具 + ブラバ プロテクティブシールから
センシュラ ミオ1 コンケーブ + ブラバ プロテクティブシール コンベックスへ変更

1 装具選択のアセスメント

項目	状況	アセスメント
ストーマの形状	●術後６日目： ストーマ基部：45×45×28mm 最大径：45×55mm	●術直後ストーマ浮腫は強かったが、術後６日目には最大径との差が10mmに変化 ●近接部の保護を目的とし、用手成形皮膚保護剤の併用が必要 ●ストーマ粘膜の保護を目的とし、ホールカットは最大径のサイズに適応する装具を考慮しつつ社会復帰用装具への変更を検討
ストーマの高さ	●口側（排泄孔）：28mm ●肛門側：5mm	●社会復帰用装具を検討するにあたり、双孔式ストーマで、口側（排泄孔）は28mmであり、十分に高さがある状態
腹壁の状況	●臍～正中側はやや硬めで、側腹部側は柔らかいがストーマを中心に山型に膨らみがある ●ストーマ粘膜皮膚接合部から近接部にくぼみがある ●坐位では側腹部の脂肪が下がり、ストーマの形状が楕円形に変化する	●術後で腹壁の硬さが均一ではなく、山形のふくらみがある腹壁は、装具が円形や楕円型では装具の外周部にしわが寄る可能性がある ●くぼみや腹壁変化に追従する形状で、適度に弾力があり、かつ、中２～３日交換が可能となる耐水性のある装具が必要
排泄物の性状	●ブリストルスケール：４～５	●排泄物の性状は問題なし
ストーマ周囲皮膚の状況	●A0B0C0:0D0	●皮膚障害はない
患者の状況（生活状況、治療方針等）	●独居で、退院までにセルフケア確立を希望し、退院後も独居を継続する ●術後補助化学療法を予定しており、治療に前向きである	●独居であり、セルフケア確立が必須 ●化学療法の暴露、副作用による体調不良などを考慮し、中2～3日交換が可能な装具選択が必要である

2 看護問題

1）ストーマ浮腫により基部径と最大径に差があることから、ストーマ近接部の皮膚が露出することによる皮膚障害発生のリスク

2）ストーマ近接部のくぼみから排泄物が潜り込むことによる皮膚障害発生のリスク

3 看護目標

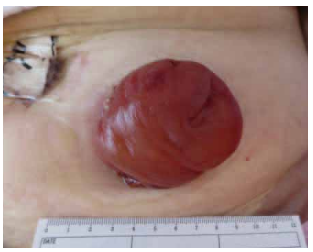
皮膚障害や排泄物の漏れを生じることなく、安定した装具装着とセルフケアができる。

4 看護の実際

浮腫を認めるストーマ粘膜やストーマ粘膜皮膚接合部、近接部を保護し、やさしく押さえながら粘膜からの水分に対して耐水性があるブラバ プロテクティブシール コンベックスをストーマ周囲全周に使用した。また、術後のふくらみのある腹壁に追従するように、センシュラ ミオ1 コンケーブを選択した。

装具変更後はセルフケア確立を目指すため、月･水･金で装具交換の練習をし、排泄物の漏れや皮膚障害は発生しなかった。装具装着時、足側のストーマを直視できず不安の訴えがあったが、練習を重ねていくうちに装着できるようになり、次の交換日まで漏れずに管理できた。その結果、装具交換に自信を持ち、装具装着に対する不安が軽減するにつれ、退院後の生活や治療なども考えられるようになった。その中で「透明な装具で診察や検査の時に排泄物を見られるのが恥ずかしい」という羞恥心が芽生え、退院に向けて不透明装具の使用を希望された。退院前に不透明装具で練習したが「思ったより難しくはなかった」と話された。退院後は、腹部の脂肪のたるみが発生し、坐位ではストーマの足側にしわ浅いくぼみが発生した。しかし、装具を変更する必要なく経過し、排泄物の漏れや皮膚障害は発生しなかった。

5 結果

	手術後3日目	手術後8日目	退院5週間後（術後58日目）
横			
正面			
剥離した面板			
使用装具	CPGFb 系単品系平面装具	センシュラ ミオ 1 コンケーブ	センシュラ ミオ 1 コンケーブ
アクセサリー	ブラバ プロテクティブ シール	ブラバ プロテクティブシール コンベックス	ブラバ プロテクティブシール コンベックス
交換間隔	中 1 日	中 2 日	中 2 日
ABCD-Stoma®	A0B0C0:0D0	A0B0C0:0D0	A0B0C0:0D0
患者の評価		ストーマが大きく、足側が見えにくく貼りにくい	慣れてきた。不透明装具は、検査や診察の時に排泄物が見えないので良い

［考察］

術直後から退院後までの経過の中で、腹壁の硬さやストーマの大きさ、ストーマ浮腫の状態などが変化する。その変化の状態に応じて適切なストーマ装具が選択できるように、ストーマ用品の吸水性や耐久性などの特徴を理解し、選択する必要がある。ブラバ プロテクティブシール コンベックスは耐水性があり、発汗やストーマからの排泄物、粘液などを吸水しながら、成分に含まれるSISにより、溶解せず形状を維持できる特徴がある。そのため、ストーマ浮腫があり排泄物以外の水分があった状態でも粘膜皮膚接合部から近接部に発生していたくぼみに追従し、皮膚を保護できたと考える。また、吸水後の形状維持は、剥離後ののり残りが少ないためべたつかず、簡単に洗浄できることが、早期セルフケア確立の一助になっていたと考える。

手術後６日目には、術直後からの腹壁変化により、脂肪のたるみによるしわやくぼみが発生したため、センシュラ ミオ1 コンケーブとブラバ プロテクティブシール コンベックスに変更した。単品系平面装具とブラバ プロテクティブシールに比べ、 センシュラ ミオ1 コンケーブとブラバ プロテクティブシール コンベックスの併用は、凸面装具より柔らかいものの、コシがあり、過度な圧迫や反発が生じることなく、ストーマ近接部の脂肪のたるみを押さえながら、ストーマ近接部のしわやくぼみにも柔軟に対応できたと考える。センシュラ ミオ1 コンケーブは、形状が星形であり、外周部がテーパーエッジになっているうえに、フィットゾーンによって面板外周部にしわが寄りにくい。この特徴が、膨らんだ腹壁で面板を貼付する面積が狭い腹壁に対し、密着性が維持できたと考える。

センシュラ ミオ シリーズは排出口の操作性や装具交換方法の手技が簡便でセルフケアしやすい装具であると感じている。患者が不透明装具を希望した理由は、取り扱いが簡便な装具を選択したことで、早期セルフケア確立が可能となり、心に余裕を持つことができたため、通院時の状態などの退院後の生活をイメージし、排泄物を他者に見られるという羞恥心が芽生えことであった。もともと足側が見えにくく、装具装着の際は装具を折り曲げ、足側を面板開口部の当たる位置で確認するように練習を重ねていたため、不透明装具でも困難さを感じることなく装具装着ができたと考える。茂野ら[1)]は、「ストーマセルフケア状況が性や年齢、皮膚障害の経験の有無に関わらず、退院後のストーマ保有者のQOLや不安に関連している」と述べている。入院中のセルフケア確立を希望していた患者に対し、それを重視した装具選択や指導を行ったことで、その希望を叶えることができた。その結果、退院後の生活をイメージした患者の希望を取り入れた装具選択に繋がり、退院後の生活や治療に対する不安の軽減につながったのではないかと考える。

［結論］

術直後のストーマ粘膜皮膚接合部から近接部に浅いくぼみのある硬い腹壁や脂肪のたるみにより発生した深いくぼみやしわがある腹壁に対し、センシュラ ミオ1 コンケーブとブラバ プロテクティブシール コンベックスを併用した装具を選択した結果、入院中から退院後１か月以上、装具の種類を変更することなく経過した。またセルフケアの早期確立が退院後の生活に対する不安の軽減や不透明装具を使用したいという患者の希望を取り入れたストーマケアに繋がった。

引用文献

1）茂野 敬 他：ストーマ保有者のストーマセルフケア状況と不安、QOL との関連 , 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 ,33(3):71-80,2017.

参考文献

・ストーマリハビリテーション講習会実行委員会：ストーマリハビリテーション実践と理論 , 金原出版株式会社 .
・穴沢貞夫、大村裕子他：ストーマ装具選択ガイドブック・適切な装具の使い方 , 金原出版株式会社 .

コロプラストは、個人的な健康上のニーズをお持ちの方々の生活をより快適にするための製品やサービスをお届けしています。製品を使ってくださっている方々の声に耳を傾け、ともに開発を行い、お一人おひとりのニーズに即した解決方法を見つけ出しています。私たちはこれをインティメイト・ヘルスケアと呼んでいます。
コロプラストは、ストーマケア、コンチネンスケア、ウンドケア、ウロロジーケアの分野で世界的にビジネス展開し、12,000名以上の社員を擁しています。

コロプラスト株式会社　〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館ビル11F
www.coloplast.co.jp　**0120-664-469**

©2022-10 無断複写・転載を禁じます。
The Coloplast logo is a registered trademark of Coloplast A/S. © 2022-11. All rights reserved Coloplast A/S

制作年月：2022.11 / 99321N